

山形県地域密着型サービス自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

※項目番号26 馴染みながらのサービス利用
 項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
 については、小規模多機能型居宅介護事業所のみ記入してください。

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	認知症高齢者グループホーム なごみ
(ユニット名)	B
所在地 (県・市町村名)	山形県 鶴岡市 羽黒町 赤川 字 熊坂 47番 3
記入者名 (管理者)	藤原 妙子
記入日	平成 20 年 10 月 10 日

山形県地域密着型サービス自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者が、地域住民との関係性を大事にしながら、地域での生活を継続できるよう取り組んでいこうという理念がある	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の朝礼での唱和により、理念を共有し再確認しながら、日々のケアに取り組んでいる	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	玄関・ホールに明示するとともに、隔月の運営推進会議においても、家族や地域の人々に理解を求めている	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	地区の老人クラブの方々から、敷地内の花壇づくりや草取りに協力していただいたり、七夕・夕涼み会等のホームの行事に参加していただいたり、又、個人的に花や木を持って来て植えて下さる方がいたり、日常にお付き合いさせていただいている。入居者と囲碁の対局をしにわざわざ訪問して下さる方もいらっしゃる	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	神社の祭りや防災訓練・芋煮会等、地域の行事に参加し、地元の人々との交流に積極的に取り組んでいる。又、毎月発行している広報を配布し、情報を公表している	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者等とのつながりを大事にしており、介護に関する相談に乗ったり、福祉体験の受け入れを行ったりしている		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価の実施は自らの質の向上につなげるものとの認識のもと、全職員で自己評価を行い、外部評価の結果についても、全職員で把握し、改善に向けて取り組んでいる		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月に運営推進会議を開催し、前回の会議以降の状況報告を行った後、出席者から率直な意見をいただき、サービスの質の向上につなげている		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護相談員の受け入れや、市主催の会議・研修会等へ積極的に参加する等、市町村とのつながりを深めながらサービスの質の向上に取り組んでいる		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	内外の勉強会や研修会への参加を繰り返すことにより、制度の理解を深めている。又、必要な人には活用できるよう支援している		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内外の勉強会や研修会に参加することで学ぶ機会を持ち、具体的な虐待例を全職員で再確認しながら虐待防止に努めている		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ際は利用者・家族(家族だけの時もあり)からホーム内を見学していただきながら説明したり、書面にて十分な説明を行い、理解・納得していただいている。解約の際も、家族と十分に話し合いを行い連携を密にしている	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員からの報告や、日々の利用者との関わりの中から意見や思いを汲み取り、ユニット会議・全体会議で話し合いを持つようになっている	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	隔月の運営推進会議での報告に加え、毎月1回発行している広報や個人宛の便りにて状況報告しており、必要時は電話連絡したり、来訪時に報告したりしている	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議開催時や通常の来訪時に積極的に家族に声かけして意見や要望を把握し、それを日頃のケアに活かすよう努めている	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	役職者会議・全体会議の中で意見を求めたり、日々のコミュニケーションの中でも意見や提案を聞き、それを反映させている	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	状況の変化が生じた場合は、その時々々の状況の変化に対応できる職員の確保に向け勤務調整を行い、利用者や家族の要望に沿えるよう努めている	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるよう配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間での職員異動は毎年1名を限度とし、基本的には各ユニットの職員を固定し、利用者が馴染みの職員によるケアが受けられるよう配慮している	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>新人職員研修・中堅職員研修等には各ユニットより1名ずつ参加。その他、介護実践者研修や管理者研修等、段階に応じた研修を受けられる配慮がなされている。又、参加者は職員会議でその内容の報告を行っている</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>交換実習の受け入れ(3名)や派遣(2名)による交流、ケアネットつるおかの研修会でのケアマネ同士の交流、そして、グループホーム部会での同業者同士の交流等を通し意見交換を行う中で、お互いに切磋琢磨しながらサービスの質の向上につなげていけるよう取り組んでいる</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>日々職員の疲労やストレスに気配りをして下さり、利用者と離れた場所に休憩・喫煙場所を確保していただいている。又、親睦会を行うことにより気分転換が図られている</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員の研修会等への参加の奨励や、資格取得に向けての支援など職員が向上心を持って働けるよう考慮していただいている</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前に必ず本人に面接して良くお話をお聴きし、本人が納得し安心して利用できるよう努めている</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族が相談や利用申込みの為来訪された際、要望や困っていることをできるだけ時間をかけてお聴きするようし、家族の気持ちを受け止めながら信頼関係を築けるよう努めている</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状況を把握し、家族が困っていることや求めていることを良くお聴きした上で、その方がより良いサービス利用ができるよう検討し、紹介等を行っている		
26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	枝豆はじき、しそ巻きづくり、干し柿づくり等の作業を手伝っていただいたり、趣味の囲碁の対局をしたりして、利用者と共に過ごし支えあう関係を築いている		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の訪問時に声かけし、意見や要望をお聴きしたり、日々の暮らしぶりや気付きをお便りでお知らせしたりしながら、家族と共に本人を支えていこうという心構えで支援している		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族の来訪時の交流、家族への電話や家族からの電話の取り次ぎ、外食の為の外出、ホームの行事への家族の参加時の交流等を通し、本人と家族がより良い関係を継続できるよう支援している		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人等の来訪を歓迎し、ドライブの途中に住み慣れた場所や通い慣れた場所へ立ち寄りしたりしながら、これまでの関係が途切れないよう支援している		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の相性を考えた上で居場所を工夫したり、その日その日の利用者の状態を把握しながら支援することにより、利用者同士が上手く関わり合えるよう、職員が調整役を担っている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他施設へ移った後も、本人の様子を見に行ったり、関係者の方から様子をお聞きしたりしている。又、退居後も電話を下さる家族や、亡くなられた後も来訪して下さる家族もおられる		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションや関わりの中で思いや意向を把握するよう努めている。又、意思表示が困難な利用者のご家族からの情報を基に、その方の仕草や表情から汲み取るようにしている		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される前に本人や家族からお聞きした情報や、以前利用されていたサービス事業所からの情報等を把握し、利用後も家族の来訪時や本人との日常的な会話の中から積極的に把握するようにしている		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ケース記録や申し送りノートに一日の過ごし方や心身状況を記録し、常に職員が目を通して一人ひとりの現状を把握することにより、出来なくなっている部分を支援し、出来る部分は継続できるよう努めている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日常的な会話の中で本人からよく聞かれる言葉や様子、家族からの要望、主治医や看護師からの指示・アドバイス等を反映させて介護計画を作成している		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しを行い、入院等により著しい状態変化が生じた場合は関係者と話し合い、現状に即した新たな介護計画を作成している		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録・申し送りノート・日常チェック表・介護日誌に一日の様子や出来事、又、気づきや変化を記入し、勤務前に必ずそれらを確認し、情報を把握してから勤務に入るようにしており、介護計画の見直し時にもそれらを活用している		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	/		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、公民館、図書館、その他公共的施設などの協力を得ながら支援している	市役所・社協・民生児童委員を含めた地区の代表の方々からは運営推進会議での意見交換を通して、消防署の方々からは定期的な防災訓練を通して、利用者が安全に生活できるよう協力をいただいております、ボランティアの方々や園児の慰問などの協力も得ている		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や生活支援上の必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、介護保険外も含めて他のサービスを利用するための支援をしている	入退居の相談、その他色々な面で、他事業所の方々(ケアマネジャーも含む)との連携を密にするよう努めている。又、介護相談員の受け入れ、オムツ支給のサービスも利用させていただいている		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	『ケアネットつるおか』の会員となり、積極的に研修会に参加し、地域包括支援センターの職員との情報交換に努めている。又、新規事業の共用型デイサービスを始めるに当たり、連携をとらせていただいている		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関をかかりつけ医としているが、その他の医療機関への通院や、かかりつけ医からの紹介で他の医療機関への受診が必要になった場合など、家族と相談し協力を得ながら通院介助を行い、適切な医療を受けられるよう支援している		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>かかりつけ医と併用し、心療内科・精神科への通院介助を行い、相談・助言・治療を受けている</p>	
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>協力医療機関の看護職員は利用者一人ひとりの状態をよく把握している為、利用者の状態変化時は勿論の事、何でも気軽に相談し、適切な助言をいただいている</p>	
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院時は居室を1ヶ月確保し、入院前の本人の情報を病院側に伝えると共に、本人を見舞いながら病院関係者と面談し、状況確認を行い、早期退院に向け取り組んでいる</p>	
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化した場合の対応に係わる指針に基づき、家族の意向を最優先にしつつも、ホームで出来る対応を家族にお伝えし、かかりつけ医と相談し指示を仰ぎながら、今後の方針を決め全職員で共有・対応している</p>	
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>家族の意向を踏まえつつ、ホームで出来る限度を見極めた上で、かかりつけ医と連携しながら対応。方針を決定し、職員が一丸となって意思統一を図り支援している</p>	
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>入居前の関係者(家族・サービス事業者・医療機関等)との話し合いや情報交換をしっかりと行うと共に、退居時においても、ホームでの暮らしぶりや身体状況等を詳しく情報提供し、住み替えによるダメージを防ぐよう努めている</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	内外の研修を通し、職員の意識向上を図っており、『心に太陽を輝かせる』を目標に、一人ひとりの人格を尊重した優しく温かい声かけ・接遇を心掛けながら日々の業務に当たっている	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員の事情を優先せず、利用者一人ひとりの思いや希望を尊重しながら、出来る事や出来そうな事には極力手を出さずに、利用者自身がやり遂げられるよう見守っている	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホーム全体のおおよそその一日の流れは決まっているものの、一人ひとりのペースやその日の体調に合わせてながら、又、本人の希望に沿いながら、無理強いせずゆったりと過ごしている	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	利用者の希望や家族の同意を得、訪問理容による散髪や、希望する理・美容院への送迎を行っている。 又、外出時の着替え等、身だしなみやおしゃれの支援も行っている	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの畑の作物の収穫から一緒に行い、調理方法についても一緒に考え、下ごしらえを手伝っていただいたりしている。 又、一人ひとりの好みや状態に合わせた調理方法や食事形態での提供を行い、職員も一緒に食事を摂っている	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者一人ひとりの嗜好を把握し、嚥下の状況や病気(糖尿病等)の確認をしながら、嗜好に合わせた飲み物やおやつを提供している	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄パターンを把握し、随時・定期で小まめにトイレ誘導を行い、失敗が少なくなるよう努めている		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一応の入浴日の設定はしているものの、本人の希望で入りたい時に入っていたり、一人ひとりの状況に合わせて入浴日を変更したり、又、二人対応で誘導や介助を行うなどの工夫をして、出来るだけ入浴出来るよう支援している		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の活性化に努め安眠につなげているものの、どうしても寝付けない方には、暫く付き合いながら優しい声かけやスキンシップを図るなどして、安心して休んでいただけるような対応をしている。 又、日中は本人の状況や希望により、ソファやベッドで休息していただいている		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴や趣味の情報を基に、その方の持っている力を引き出せるような役割を考えたり、個人の楽しみ事やドライブ・行事等で気晴らししていただけるよう支援している		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持されている方はおられるが、殆んどの方が所持されておらず、ホームが立替払い対応をしている		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	行事委員会で計画した花見バスハイクに加え、利用者が希望する場所へのドライブや、買い物に出掛けられるよう支援している。 又、近くの公園まで散歩に行ったり、敷地内の花壇を眺めていただいたり、畑での収穫を楽しんでいただいたりしている		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族の協力を得て、家族と一緒に自宅に帰ったり、お墓参りをしたり、外食をしたりと出掛ける機会をつくっている。 又、希望があれば、ドライブの途中に立ち寄りしたりしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族等からの手紙や電話の取り次ぎは勿論、本人からも電話をかけられるよう支援している。 又、ハガキを投函してあげたり、年賀状を出すための支援もしている		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族等がいつでも気軽に訪問し易い雰囲気づくりを心掛け、笑顔で挨拶をしている。 又、訪問された際には団欒の妨げにならないよう配慮すると共に、プライベートな空間づくりに努めている		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内で身体拘束についての勉強会を行い、全職員が身体拘束となる具体例を正しく理解しており、身体拘束をしないケアを実践している		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる	戸外に出ようとした際は優しく声をかけて対応し、出ようとした理由を理解するように努め、無理に引き止めずに見守りを強化したり同行したりして対応し、日中は鍵をかけないで自由に出入りしていただいている		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は職員全員がホールから外れるこのとないよう対応し、利用者一人ひとりの所在確認と状況把握を行い、夜間は2時間毎の巡視と起き出し時の対応を行うなど、安全に配慮している		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬品等の保管庫は万が一の事を想定し施錠しているが、包丁・食器用洗剤等は所定の場所に置き、危険のないよう注意を払いながら使用している。 ハサミや裁縫箱は居室に置いている利用者もおられる		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	毎月1回事故防止委員会を行い、事故発生時の状況の振り返りと事故防止策についての話し合いを行っている。 又、月1回のユニット会議においても、利用者の状況変化に伴い想定されるリスクの予測を行い、事故防止に向けての話し合いを行っている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	日中・夜間の救急対応についてのマニュアルを作成し、周知徹底を図っている。 消防署の協力を得て、心肺蘇生法についての研修会も行った		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の防災訓練を実施しており、今年は夜間の火災を想定した避難訓練も実施した。 又、簡易トイレや非常食等を購入し災害発生時に備えると共に、運営推進会議などで、地域の人々に災害発生時の協力を呼びかけている		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	身体拘束や施錠をしないことによって起こり得るリスクについて家族に説明・納得していただいております、利用者は抑圧感のない生活を送られている		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	全職員が利用者一人ひとりの既往症や留意事項を把握しており、その日の勤務に入る前に必ず日常生活チェック表(食事・水分摂取量、排泄チェック、バイタルチェック)やケース記録に目を通し、情報の共有に努めている。又、異常の兆候を見逃さないよう様子観察に努め、必要時は医師・看護師に連絡し、指示を仰ぎ対応している		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ケース記録に薬の効能書きを綴り、情報を共有している。 又、臨時薬が処方されたり、用量の変化があった際は、申し送りノートとケース記録に記録し職員間で共有すると同時に、症状の変化は見逃さずにかかりつけ医に定期・随時に報告している		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	下剤に頼らぬよう、毎日の水分摂取量と排便のチェックを行い、無排便の日が続いた時だけ下剤を使用するなどしている。又、出来るだけ身体動かす働きかけをすると同時に、牛乳を飲んでいただいたり、下腹部のマッサージを施すなどし、自然排便が出来るよう取り組んでいる		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、一人ひとりの口腔状態に応じた口腔ケアを実施している。 又、年2回連携している歯科医に依頼し、口腔ケアに関する研修会を行い、口腔ケアの重要性を学び、実践につなげている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を毎日チェック表や温度版に記入し、職員がそれを確認しながら、一日を通して必要な食事・水分量が確保できるよう、一度に食べられない方には小分けにして食べていただく等の工夫をし支援している		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	各種感染症に関するマニュアルを整備。感染症の流行に迅速に対応すると同時に、職員が仕事に入る前に、うがい・手洗いを励行するなど、感染防止に努めている。 又、職員・利用者とも、全員インフルエンザの予防注射を行っている		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	布巾は每晚漂白し、調理器具・冷蔵庫・流し台は曜日を決めて除菌・掃除を行い、調理前の手洗いを励行している。 食材については、信頼のおける業者より、新鮮な物が毎日配達納品される		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先にプランターを置き、その横に洗濯物を干し、家庭的で明るい雰囲気の玄関になっている。 又、玄関前の敷地には広々とした花壇や畑があり、誰でも安心して出入りが出来るようになっている		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広々とした共用空間となっており、冬期間は床暖房を施し、居心地良く過ごしていただけるようになっている。 又、食事作りの匂いが生活感を漂わせ、その時節の花壇の花を飾り、季節感を感じていただけるよう心掛けている		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間に畳スペース、ソファ、椅子が設置されており、それぞれ思い思いの場所でくつろいだり、会話をされたりして過ごされている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族が希望する家具や日用品を持ち込んでいただき、利用者が安心して過ごしていただけるような環境づくりに努めている		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	要所要所に温度(湿度)計を設置し、外気温との差が生じないように温度調節を行っている。 又、小まめに換気すると共に、空気清浄機や換気扇、消臭剤を使用し、嫌な匂いがこもらないように対応している		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー、手すりの設置、動線には障害物を置かないようにするなどして安全に配慮すると共に、出来るだけ自立した生活が送れるよう、利用者の背丈に合わせた流し台を設置したり、福祉用品を使用するなどして工夫している		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者一人ひとりが出来るだけ自立して生活できるよう、何が原因で混乱するのか、どのようにしたら失敗を防げるのかを職員間で見極め話し合いながら、個々に合わせた対応を工夫して支援している		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	敷地内の花壇や畑を車椅子の方も入れるように整備し、外気浴を楽しんでいただいたり、元気な方からは草取りや野菜の収穫をしていただいたりしている		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

自然環境豊かな農村地域に根ざし、開設当初から地元集落の一員として認知していただき、職員が集落の諸行事に参加したり、集落の方々からホームの夏祭り等の行事へ参加していただくなど、積極的に地域との交流を図りながら、“利用者にとって居心地の良いグループホームづくり”を目標に日々取り組んでおります。

また、ホーム内の敷地を活用して、農業高校との連携による『花壇づくり』を行い、地元老人クラブの皆さまの協力を得ながら、花の苗の植栽や除草作業を取り組むなど、ホームとしての特徴づくりを心掛けております。

周囲の景観に加え、ホーム内は利用者が穏やかな生活を送れるよう、ホールの天井を高くし、採光と風通しが良くなるように工夫され、圧迫感のない明るい雰囲気となっております。

今後も、利点を活かしながら、各福祉施設や医療機関を始め、ご家族や地域の方々のご協力の下、より良いホームづくりに邁進していきたいと考えております。